

キャリア教育を通じた進路選択をめざして

本校は、6年生で全員が何らかの進路選択を行うという点で、とても特徴的な学校です。しかし、わずか12歳の子どもにとって、自分で主体的に進路を選択するというのは、簡単なことではありません。自分はどんな人になりたいのか、どんな生き方をしていきたいのか、何を大切にしていきたいのか。また、そのために、どのような学校を選択したいのか。これらを自分に問いかけ、自分で答えを出そうとするプロセスをどの子どもにも辿ってほしいと願い、「①自身の主体的な進路選択」というキャリア教育の方向性を一つの柱として、本校では様々な分野や生き方に触れる機会をつくっています。さらに、そのようなプロセスを経て辿り着いた一人ひとりの進路選択は、すべて尊重されるべきであると考え、「②他者の進路選択への尊重」という方向性をもう一つの柱として、互いの選択を尊重し合える関わり方を考える機会をつくっています。

①自身の主体的な進路選択



②他者の進路選択への尊重



キャリア教育

めには、同時に②が欠かせない要素となります。そのため、①と②は本校のキャリア教育の大切な二本柱となっているのです。

つまり、本校では、これら二つの柱によって、キャリア教育を構成しています。一般的には、キャリア教育といえば①のみが扱われることが多くあります。実際、文科省の提唱する「キャリア教育」も、①に焦点を合わせたものとなっています。しかし、6年生全員が何かしらの進路選択を行う本校では、①を実現するた

様々な分野で活躍したり、
進路選択をしたりしてきた
大学生による自分の「生き方」選択
についての話



学校懇談会でもご紹介した通り、①の機会としては、様々な分野で活躍する卒業生に来てもらい、多様な「生き方」選択の具体について5、6年生を対象に語ってもらっています。

また、②の機会としては、6年生を対象に、具体的な場面を提示しながら、色々な立場や状況を想像し、自分の言動や振る舞いを捉え直す場をつくっています。



色々な立場や状況を想像しながら
友達の気持ち、自分の言動を考え
るミニ講座



本校のキャリア教育として実施している上記のような二本柱を、「学問」という言葉で表した人物が約150年前にいました。福沢諭吉の『学問のすすめ』を一度は手に取られたことのある方も多いかと思います。福沢諭吉は、『学問のすすめ』において、「学問」とは、「書を読むこと」だけではなく、「物事の道理」をきちんと知り、自分の「人としての使命」を知ることであると述べました。さらに、人は「学問」を通して「自由」と「平等」を得ることができるが、その際に重要なのは、人（他者）にとっての「害」を考え、自分の「なすべきこと」を知るこ

とだと述べています。福沢は、このような「学問」が人間としての「判断力」を養うと考えたのでした。

このように福沢が奨励した「学問」は、本校のキャリア教育の考え方と重なるところが大きくあると捉えられます。自分の生き方や為したいことを考え、自分の人生の歩みを主体的に選択することは、自分の「人としての使命」を考えることであり、それを選び決める「自由」と「平等」が一人ひとりにあります。しかし、その「自由」が「わがまま」と異なるのは、あくまで人（他者）にとっての迷惑や困難にならないことに依ります。そのような境目を考えながら、自分の言動を捉え直し、自分の生き方を考えることが「学問」であり、そのような「学問」によって、判断力や思考力を身につけていくことがめざされています。これはまさに、現代のキャリア教育が、そのプロセスにおいて「人間関係形成能力」や「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」を形成しようとしていることと同様の考え方だと理解することができます。

以上のように考えたとき、本校の6年生児童が直面している進路選択の機会、福沢のいうところの「学問」に出会う最初の機会でもあるといえるでしょう。毎年度、キャリア教育で見られる子どもたちの「学問」の第一歩の姿として、「そこまで考えていなかった」という言葉が多く表出されます。例えば、以前、卒業生のお話を聞いた後に書いてもらったワークシートには、「将来何をしたいのかまだ自分はそこまで考えられていなかったけれど、自分も見つけていきたいと思った」という感想や、「周りに合わせて進路選択をしてしまっていたなと思ったから、自分がその学校で何をしたいのかちゃんと考えようと思った」といった感想が多く書かれていました。また、友達との関わり方を考えるミニ講座では、「そんなつもりはなかったけれど、よく考えると聞いていた友達は嫌な気持ちになっていたかもしれない」「みんなの意見を聞きながら考えてみて初めて気づいたけれど、自分ではそこまで考えられていなかった」という意見や振り返りが聞かれます。「そこまで考えていなかった」ことに子どもたち自身が気づき、それを考えてみようとするという人生の大切な「学問」を、これからもキャリア教育で支えていきたいと思います。

<11月の行事予定>

日	曜	11月の行事予定	12月の主な行事予定
1	金	校外学習（6年）	3日（火） クラブ活動⑧ 6日（金） 休業日 9日（月） 休業日 11日（水） 心理実習 17日（火） クラブ活動⑨ 19日（木） 学年懇談会③ 23日（月） 給食終了 24日（火） 12:00 下校 25日（水） 冬季休業日
2	土		
3	日	文化の日	
4	月	振替休日	
5	火		
6	水	幼稚園教育実習生小学校授業参観	
7	木		
8	金	スポーツデー前日準備 13:50 下校 （プロジェクト・係に所属していない子ども）	
9	土	15:00 完全下校 スポーツデー 弁当日	
10	日	スポーツデー予備日 弁当日	
11	月	代休日	
12	火	クラブ活動⑤ 弁当日	
13	水		
14	木		
15	金		
16	土		
17	日		
18	月		
19	火	学校評議員会② クラブ活動⑥	
20	水	宿泊活動（4年）	
21	木	宿泊活動（4年）	
22	金	宿泊活動（4年） 給食試食会	
23	土		
24	日		
25	月		
26	火	学校懇談会③ クラブ活動⑦（3年生クラブ活動見学）	
27	水		
28	木	幼小合同講演会	
29	金		
30	土		